

- 1 春の風楽隊の住む六畳間
- 2 水牛の記憶は角へ四月くる
- 3 錨より解放せらる春の海
- 4 さあ行こう夏空白みゆく方へ
- 5 朝風に気付かぬ髪を切ったから
- 6 打水はプランクトンもぶちまけて
- 7 私の日差しもらってよ夏帽子
- 8 スカートの女子にまたがれ雲の峰
- 9 炎昼や振り子止まった実験室
- 10 かき氷こぼす大河へ海原へ
- 11 呼ばれて一步呼ばれて一步夏の海
- 12 蚕豆の眉毛の部分から食らう
- 13 壇立てば千の白シャツ千の顔
- 14 田園にささやくような虹の音
- 15 振る女振られた男天道虫
- 16 真っ白き日傘油絵まだ途中
- 17 水面の竹林を行く錦鯉
- 18 自らに苔茂らせる陸亀よ
- 19 恋をして秋のはじめのカプチーノ
- 20 鉛筆の音に秋色を乗せている
- 21 海隔てわずかに早い秋の朝
- 22 東京都(とうきょうと)定礎の文字の露しとど
- 23 身体ごと秋めいてゆくカメレオン
- 24 占いに向かない花ね女郎花
- 25 定点天体観測者案山子
- 26 日本史の便覧稲は稲のまま
- 27 秋団扇来年何をしているか
- 28 秋の雨世界にトーン貼る作業
- 29 ブドウ園から一粒をもぎ取って
- 30 天高し嘴広鶴は健啖家
- 31 イグアナはジュラ紀の秋を知っている
- 32 赤い羽根より金の針消えにけり
- 33 分数の割り算とんぼの低高度
- 34 秋気澄む色は被服の形して
- 35 積分の公式鰯雲続く
- 36 町中の歩みを止める秋の虹
- 37 思い草食らいて白バク輝きぬ
- 38 秋霖を咲き南よりメールくる
- 39 日輪を貴ぶごとく山眠る
- 40 粉雪の一つ一つが呼吸する
- 41 神渡しライオンは見上げるばかり
- 42 薄氷や木の葉は浮いてただけなのに
- 43 焼き鳥を串から外す白き手よ
- 44 寒犬の噛まなくなった玩具と手
- 45 麗らかや友を探しに本屋まで
- 46 春の日に庭先に干すジョーロジャー
- 47 春風の吹き溜まりをる小さき庭
- 48 鳥雲にいる鳥全て白になる
- 49 行く春を小学生と見送って
- 50 世界史は戦の歴史麦酒飲む

- 51 夕焼けも鳥もあくびをするらしい  
52 ゼリー見透かされてプリンに恋をする  
53 フラスコは傾いたまま夏季休暇  
54 緑陰や桐箱ひとつ眠りをり  
55 蝉時雨より逃れたり宇宙船  
56 波音は陸を食う音夏の海  
57 青蛙内臓全て呼吸する  
58 夏の星掴もうと猿立ち上がる  
59 名月が地図の境を消してゆく  
60 サイの目は秋を静かに閉じ込めて  
61 松茸の炊いていよいよ白となり  
62 爆弾のコードは赤と青月夜  
63 檸檬絞る種も果肉も握りこみ  
64 月の喧騒波音掻き消しぬ  
65 稲刈りて道は広さを取り戻す  
66 泣き声の受話器私の星月夜  
67 あのねから始まる話くぬぎの実  
68 月光や笑えるほどに人間で  
69 冬近し解れを引いてしまう癖  
70 月差すや画のない画廊にひとりきて  
71 林檎剥く間に世界は何周した  
72 三日月を口にたたえる伽藍鳥  
73 紅葉塗る色鉛筆を選びをり  
74 心臓はあげるよ月を僕にくれ  
75 虫の音をかき分けて吐息はすぐそこ
- 76 栗飯の栗を蛍光灯照らす  
77 沈黙は月を誉める合図  
78 流木も紅葉も河馬もただ浮かぶ  
79 行く秋や暖色ばかり費やして  
80 十月に届きし文に火をくべて  
81 星月夜黒き男の黒きまま  
82 脳髓の痺れる声や秋澄めり  
83 傷跡を隠してる手を繋ぎ月  
84 秋雨の音は故郷と変わらぬ  
85 秋麗や水嚙下する喉白し  
86 月面と狭き部屋しか知らぬ猫  
87 虫の夜二人つきりの秘密基地  
88 手を繋げなければ同じ月を見て  
89 飛んでしまふよ満月の夜だもの  
90 流星を十五数えたら帰ろう  
91 柔らかく添い寝をねだる月眩し  
92 少年に戻りし秋にさようなら  
93 聖樹から落ちし兵士の行く先は  
94 凍星や最後の希望としての僕  
95 お互いの声を潜めて初電話  
96 寄せ鍋の集合写真撮り損ね  
97 白菜のクリーム煮込み赤ワイン  
98 星冴えて左脳言語野震えたり  
99 終わらない唄を歌おう冬渚  
100 寒月や我のなりたきものは鬼